



流域とエコツーリズム

NPO法人ねおす 宮本英樹

NEOS (Nature Experience Outdoor School) とは？

自然体験活動を手法に、「環境」「観光」「教育」「地域作り」などを手掛けている事業型の非営利団体

人と自然の新しい関わり方、暮らし方を、自ら提案することで、持続可能な新しい社会づくりに貢献する

子どもから大人までの自然体験活動プログラムの企画・実施から指導者の育成、学習拠点作りまで自然体験活動を総合的にプロデュース

様々な「交流(ツーリズム)」を通して、北海道らしい自然体験文化を育てる

私たちが行っていること・支援していること

- 人材育成 起業支援**
エコツアーコーディネーター
インタープリター
インバウンド方式の旅行会社
- 地域マネージメント**
センターの運営
地域の人への教育
自然資源の管理
- プログラム開発と実施**
エコツアープログラム
地域マネージメントプログラム
- エコツーリズムの研究**
ガイドラインの設定
モニタリング



人材育成 起業支援

地域づくりのコーディネーターの育成

自然体験活動や環境教育に関わる人材育成の育成

地域づくりや自然・環境に関わるコミュニティビジネスの起業支援



地域マネージメント

受け入れ施設の整備

地元の人への教育

地域自律型のツアープログラムをつくることを目標

旅行者(利用者)が自然環境保全に参加できるプログラムづくり



プログラム開発と実施

各ツアープログラムの企画・実施

地元の子どもから大人までの体験型教育活動の企画・実施

プログラム・ツアーの企画研修会



なぜエコツーリズムに取り組むのか

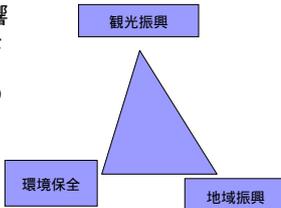
北海道には良質で特徴的な自然
日本の中で食料生産基地としての位置づけのため
2次産業が発達しておらず、きれいな自然と農・林・水産業
が残っている。

この資源を 持続的に 上手に活用した
ライフスタイル・文化・産業 を手に入れたい

自然環境の持続化を考え、産業や地域と結びつき、地域が
主体的に考え、他の地域と交流した学習の機会が必要

エコツーリズムの特性

- 自然環境に与える影響を最小限にする努力をする(自然保全)
- 観光資源として地域の自然環境を用いる(観光振興)
- ・ 地元への利益の創出(地域振興)
- ・ 学習の機会、調査研究の創出



エコツーリズムの効果と課題

- | 効果 | 課題 |
|------------------|----------------------------|
| ■ 観光地の自然観光を守りやすい | ■ 負荷の集積による環境悪化 |
| ■ 地域主導で効果的な観光振興 | ■ 成功するほど新規参入者や観光客が増加し規模が拡大 |
| ■ 地域資源の再評価 | ■ ツーリストの影響大 |
| ■ 地域内のネットワーク化 | ■ ルールやガイドライン |
| 地域構造の変化 | |

エコツーリズムからサステナブルツーリズムへ(最近の北海道事情)

- マスツーリズムによるエコツーリズムの取込
- 「ソフト」エコツーリズム
- 産業や企業のエコ化 グリーン化
- 地域の自立的な観光の模索
- 特定の目的を持つ観光客の増加
- 環境観賞型から保全活動参加型へ
- エコツアーのグローバル化

エコツアーデザインの実際と地域マネジメント



何らかの目的(自然資源の保全、地域活性化)でエコツアーを行いたい関係者が集まる



自然、文化、風土資源をもう一度学び、地域内でエコツアーを考える

エコツアーのデザイン 地域マネジメント



- 情報を発信
参加者ともにエコツーリズムを通して
よい地域イメージを発信する
- 参加者や支援者を呼び込
む
外部の目でもう一度地域資源を学
ぶ
- 新しい参画者を結びつけ新
しい地域内ネットワークを
つくる。

循環・連関型コミュニティビジネス モデルのイメージ



今地域大切なことは

- 地域資源・資金を
有機的にネットワークし、活用し続ける
機能、力
- 流域は つながりのキーワードになりやすい

エコツアープログラム 実例

- 目的
湿原の保全・地域を巻き込んだトラスト活動
市民の社会参加による地域活性化
- 場所：北海道東部 湿原
ラムサール条約登録湿地
- 現地受入：トラスト関係者 地域ガイド 1次産業従事者
森林行政
- 参加者：札幌在住 8名

エコツアープログラムの実際



- 1日目
湿原を楽しむアクティ
ビティ



エコツアーの実例



- 2日目
漁業体験
コンブと湿原のつながり
について学ぶ



エコツアーの実例



2日目

- 海産物を食べる
自分とのつながり
地元住民との交流
もう一度湿原を観察



エコツアーの実例



- 3日目
保全活動への参加



修学旅行 北海道教育大付属小 2泊3日 黒松内



修学旅行(宿泊研修)



流域ネットワーク型の事例

WELCOME TO TNS PAGE

ようこそNPO法人常呂川自然学校のホームページへ。
6月22日NPO法人として新たなスタートになりました。

「感じる心をはぐくみます!」

生物研究者(フィールドワーカー)、教育者等が
北海道のオホーツク地方で活動中です。

最終更新日:2008.1.19 (更新 不定期&毎月月上旬)

TNS最新広報

2008年1月9日

常呂川詣で



■ 募集案内



常呂川自然学校とは

環境教育支援事業

(教育機関の支援、自主事業での地域教育支援)

自然観察会活動、自然体験活動(河川、森、生き物)、科学体験活動、アズカラ環境教育プログラム「ネイチャーゲーム」「プロジェクト・ウィルド」※野生生物「プロジェクト・ウェット」※水、の紹介。

環境調査事業

魚類調査、鳥類調査、植物調査、水生動物調査、河川調査。

人材育成事業

自然体験等プログラムによるワークショップ開催支援。

自然体験観光事業

オホーツク圏の自然を使った体験型観光、自然ガイド提供



源流大学 理事長

理事長

羽根石 晃彦 はなしい てるひこ 40代



自然が好きで、特に川が好きでときどき魚探りに夢中になっってしまうおじさん。

環境教育プログラム指導員(ネイチャーゲーム、プロジェクト・ワールド、プロジェクトウエッジ等)

青少年自然体験活動指導者(北海道教育委員会)

河川の生物調査員(魚類「サケ科」、鳥類、哺乳類「コウモリ」)、エソシカ、植物、水生昆虫(ホタルのみ)



理事:神保直彦 理事:中川 誠

理事:軽田益美※手続き中。

他、会員 13名



※ 教諭、会社員、団体職員

公務員、自営業

源流に注目した事例

東京農業大学 源流大学

源流大学本部

- 源流大学本部
- 多摩川源流大学ってなに?
- 源流・源流域って?
- 源流域は魅力がいっぱい! 本物の教材がいっぱい!
- 地産地消の手順書はほしい!
- 森林体験コース
- 農業体験コース
- 農林体験コース
- 源流体験コース

源流大学本部

源流大学本部



多摩川源流大学ってなに?



多摩川源流大学は東京農業大学の文部科学省の補助事業「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に申請して採択された「多摩川源流域における地域再生と鳥獣害教育」という取組のことで

この取組は東京農業大学の学生が源流域の山梨県小菅村に行って様々な体験実習をする中で、「授業を聞いただけではわからないことを実感し、本物を知って、見分けられるようになる」というものです。

源流・源流域って?